

青木村長期振興計画後期基本計画素案に関するパブリックコメント実施報告

平成 28 年 10 月 28 日から 11 月 18 日までの 22 日間、青木村長期振興計画後期基本計画素案を役場の窓口及びホームページに公表し、計 3 名の方よりご意見をいただきました。いただいたご意見を項目別に整理し、対応をまとめました。

項目	意見	対応（案）
全般	○大事な点がほぼ網羅されているので、あとはいかに「実施計画」を策定し、効果を出していくかが問われると思います。	ご指摘のとおりです。今後、本計画に基づく 3 か年の実施計画を策定し、実効性のある施策に取り組んでいきます。
人口	○現状は、推計値よりも早いペースで人口減が進んでいる。子育て世代をいかに増やしていくか ⇒全学年 2 クラス化実現 ↓ 非常に恵まれている「 <u>子育て優遇策</u> 」を <u>全面に出した村外への P R 活動の徹底</u> 。 ※中挟の人口が増えているのが、個人的には気になりました。私にとっては地味な印象の区で、特に移住者が増えているというわけでもないのに、どうしてなのか、その理由が知りたいなと思いました。	本計画に基づいて子育て支援や教育環境のさらなる充実を図り、それらの魅力を村内外に発信して、子育て世代の移住・定住につなげていきます。
重点推進プロジェクトその 3（小・中学校全学年 2 クラス化）	○重点事項としております「・小中の全学年で 2 クラス化の実現を図ります。…」は長期計画の最も重要の一つと考えております。 1. 2 クラス化のために基準生徒数未満でも予算確保で実現することも望みますが、むしろ <u>2 クラス化の基準生徒数をどうしたら実現できるのか長期的な方針が必要</u> と考えます。 2. <u>近い将来、生徒数減の推移を共有認識として高めていくトレンドの強調をもっとアピールする必要</u> があると思います。 3. 村内定住世帯での子供人口増を目指す方針も不可欠ですが、現行の推移からみて <u>若い世帯の移住対策が急務</u> だと思います。 4. 人口減の歯止め、横ばいを目指し、子供達増に結びつく基本方針として若い世帯を受け入れる計画が、⑧都市間交流で記述されており、移住対策としてすでいくつか実践されておりますが更に <u>青木村らしさのものが必要</u> と考えます。例えば、村内にはアトピーを防ぐ農産物がいくつか生産されていますが、この農業を P R した移住促進の呼掛け、・・・等	ご指摘のとおり、小・中学校の全学年 2 クラス化の実現に向けて、長期的な方針は必要だと考えます。 まず現状の共有認識を図るために、小学校・中学校の児童・生徒数の推移グラフを第 2 章の村の概況に付け加えました。その経年変化をみると、必ずしも減り続けているわけではありませんが、青木村の出生率は県の平均を下回っており、将来的に児童・生徒数に影響を及ぼすことが想定されます。 これを高めていくためには、本村でこれまで以上に子どもを産み、育てやすい環境を整えていくことが重要です。それには結婚から妊娠、子育て、教育という流れの中でのトータルな支援と、ご指摘のように、青木村に住んでみたいと思われるような特色づくりが必要不可欠だと考えます。いただいたご意見を本計画の各所に反映いたします。

項目	意見	対応（案）
移住・定住	<p>○全クラス2クラス化が実現しても、高卒後勉学や就職のため離村する若者が多数⇒村を離れて改めて青木村の良さに気付く若者が多いと思うので、そんな若者が村にUターン出来る環境の整備。</p> <p>○青木峠新トンネルが完成すれば松本地区への通勤も可能になる。<u>上小及び松本方面での広域就職活動の後押し。</u> 日本一住みたい村 青木村は上田市のベッドタウンとしても適地です。そして青木村には余剰の土地もある。若者向けに<u>安心・安全・安価、良質の住宅地を提供</u>してはどうか。</p>	<p>ご指摘のように、本村においてUターン・Iターンを促す施策は特に重要と認識しており、4つの重点推進事業はいずれもこれに関連する施策の柱になるものです。</p> <p>若者にとっては、特に働く場所と住む場所が非常に重要な要素になりますので、青木村の立地環境を最大限に活かし、分野6の「⑨ 移住・定住」を中心に、居住誘導に有効な支援策を盛り込み、展開していきます。</p>
情報発信	<p>現在、村営住宅に入居しています。村営住宅には若い世代の人がほとんど住んでいますが、まわりの家はほぼ高齢世帯で、中には空き家もあります。この先もっと空き家は多くなると思います。</p> <p>青木村はせっかく日本一住みたい村に選ばれたのだから、<u>もっと全国に向けて宣伝していった方がよい</u>と思います。都会の人向けに東京などでキャンペーンをするなど知ってもらうことが大切なのではないでしょうか。<u>もっと村に若い人たちが入ってきて活気が出るような村</u>にしていってほしいです。</p> <p>・「日本一住みたい村」「子育て日本一」を全面に出した<u>斬新なHPに改訂</u>する。 ・<u>移住促進のための村内の求人情報を掲載</u>。 ・<u>観光ページに関しては英語、中国語バージョンも併記</u>。</p>	<p>ご指摘のとおり、今後も空き家の軒数の増加が見込まれ、それに伴う様々な問題も懸念されます。</p> <p>今後は個々の空き家の状況を的確に把握する中で、本計画にも記載のとおり、リフォームして使用可能な建物の有効活用を促すしくみづくり（情報提供、リフォーム補助金など）に力を入れ、若者の移住につなげていきます。</p>
農業	<p>○<u>高齢農家への援農体制の構築</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア組織 ・新規就農者の確保 <p>※高齢果樹農家の現状が非常に気になっています。新規就農者への橋渡しが急がれます。</p> <p>○<u>観光農園の設立</u> 後継者のいない果樹農地を借りて観光農園を運営。</p> <p>※青木峠新トンネル完成を見据え、道の駅近くに果樹の摘み取り体験が出来る施設が出来れば、道の駅、ふるさと公園との回遊性が広がり、集客増も期待できる（この周辺では東山観光農園しかないので、可能性があると思います）。</p>	<p>本計画に基づき、各施策を展開していく中で情報発信は非常に重要と考えております。ホームページやSNS（ソーシャル・ネットワークキング・サービス）ツールなどを有効活用し、より効果的かつ積極的な情報発信を行っていきます。</p> <p>また多言語表記に関しては、ホームページのみならず、観光の案内表示やパンフレット等にも積極的に取り入れていきます</p> <p>農業は本村の基幹産業であり、その担い手の高齢化が進む中で、農業の持続的な発展を図るために、援農や観光農業といった視点は非常に重要だと考えます。</p> <p>ご指摘の施策は分野2の「① 農業」や「⑥ 観光」に盛り込み、意欲的な農業経営や農業参加を推進していきます。</p>

項目	意見	対応（案）
その他	<p>今春保育園を辞めた上田さんが専業農家になり、「信州自然農園ゆりくーら」を立ち上げました。彼の作ったお米（無農薬、無化学肥料、無除草剤）を試食する機会があり、その美味しさに驚嘆しました。手間をかけて作っているのです、値段が高いのですが（キロ 800 円）、販路が安定してもう少し値段を下げられれば、都会の食にこだわる人たちには十分通用すると確信しました。また、村松にオープンした天然酵母のパン屋さん「木まま屋」のパンもとても美味しく、オープン日には若いファミリーがたくさん訪れてパンを買っていました。若い人が頑張っている姿に憧れ、未来への明るい展望を感じた次第です。彼らの頑張りに対し、購入することでぜひとも応援したいと思っています。「類は友を呼ぶ」と言います。彼らのような<u>チャレンジする若者を村としてもぜひ応援してあげてほしい</u>など強く思います。</p>	<p>若者の力が今後の村づくりの大きな原動力となります。</p> <p>行政としても若者たちの村づくりに関する意欲ある取り組みは全面的に支援していく考えであり、本計画の「各分野の施策展開」でも、各分野における施策展開方針として、特に若者に向けたメッセージを強調して、記述しました。</p>